

中村 蓉 Yō NAKAMURA

踊るスイッチ ON!! あなたの人生が、激情が、ダンスになります。

音楽やちょっとしたアイデアが手助けしてくれるはず。心と体の毛穴を開いて、思わず出ちゃった自分自身をお土産にしてください。



Photo:富樫伸一郎



「浦安音楽ホール市民参加作品創作」Photo:江野耕治



Photo:山崎恵

プロフィール

早稲田大学在学中にコンテンポラリーダンスを始める。2010年より自身の作品を創り始め、ルーマニア・シビウ国際演劇祭、東アジア文化都市式典、国際芸術祭あいち2022などで作品を上演し、国内外で活動している。長編ソロ『顔』は公演評が産経新聞〈鑑賞眼〉(文:岡見さえ氏)に掲載された。サンリオピューロランドのショー『Nakayoku Connect』やドイツ・マインフランクエン劇場製作『ANATEVKA (屋根の上のヴァイオリン弾き)』などの振付も担当。東京二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『セルセ』では演出・振付を担当した。郷ひろみ「笑顔にカンパイ！」MV (振付：近藤良平氏) などにも出演。

ホームページ
連絡先(担当) http://yo-nnn.wixsite.com/yo-nakamura
中村蓉
※ダン活、ダン活支援に関するお問い合わせは、上記HP内CONTACTよりお願いします。

アーティスト在籍地 東京都
アーティスト出身地 新潟県長岡市



Photo:金子愛帆

活動歴

〈2014年〉イギリス・ウェールズNational Theatre Walesレジデンス企画にて現地の映像作家Jorge Lizaldeとのプロジェクト“Cymru and I”を開始。2015年に新潟県長岡市でも実施。
〈2015年〉横浜市主催DanceDanceDance@Yokohama公式PV振付・出演。
〈2017年〉青森県八戸市南郷文化ホール南郷アートプロジェクト「DANCE×JAZZ」にて地元のビッグバンドと共に『オールナイト南郷!』を上演。
〈2018年〉浦安音楽ホールにて市民参加作品「プランニュー浦安! 〜心と体の夢の国〜」を上演。浦安にまつわる楽曲も作曲家飯田翔一氏と創作。
〈2019年〉岩手県宮古市にて、街の風景を踊りで巡る映像作品〈ダンス借景〜小説『蜘蛛崎心中』を読みながら〜〉と、縄文文化を身体で学ぶ『縄文かもしれない体操』シリーズを製作。
〈2020年〉都内民家よりオンライン公演『ジゼル特別30分版』を配信。

〈2021〜23年〉東京都北千住の築90年の民家で一ヶ月ロングラン公演「家と暮らせば」を演出振付。毎年春3年間上演。
〈2022年〉国際芸術祭「あいち2022」にて『ジゼル』上演。

受賞歴

〈2012年〉『マーガレットの休日』ダンスコンテストNEXTREAM21審査員特別賞
〈2012年〉『別れの詩』第1回セッションベスト賞
〈2013年〉『別れの詩』横浜ダンスコレクションEX審査員賞シビウ国際演劇祭賞
〈2014年〉『シェルフィッシュ』トーキョー×ソウルデュオダンスフェスティバル人気賞
〈2016年〉第5回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞

ワークショップ歴

〈2014年〉ルーマニア・シビウ20-30代男女対象に実施。主催：シビウ国際演劇祭
〈2015年〉横浜美術館20-60代男女対象に実施。主催：横浜トリエンナーレ
〈2018年〉ドイツフランクフルト市立シュレーアムリート高校1-3年生約20名に実施。主催：横浜アーツフェスティバル実行委員会、後援：フランクフルト市
〈2022年〉神奈川県青少年ダンス講習会にて中学高校ダンス部70名対象に実施。主催：神奈川県
〈2022年〉北九州芸術劇場にて財団職員対象に実施。主催：北九州市芸術文化振興財団
〈2023年〉都内小学3年〜中学3年生13名と10日間で『愛なんだ2023』を創作し、なかのZERO小ホールにて発表。主催：芸術家と子どもたち

可能なワークショップ等のスタイル

アウトリーチ

①学校でのアウトリーチ

ロダン「考える人」やゴッホ「ひまわり」またはバナナやリンゴなど、有名な美術作品から身近な物まで、じっくり観察して全身で「なり切る」!「変身する」!体や気持ちは変幻自在であることを伝えます。アウトリーチの最後には、これまで行ったエクササイズを取り入れた振付を、現在流行っている歌や生徒さん達知っている曲に合わせて踊り尽くします。これらの体験を通して、ダンスが身近にあること、ダンスは世界の切り取り方の一つなんだということを伝えます。

②教員へのアウトリーチ

教員を対象に、学校でのアウトリーチ内容を、その目的や段階を言葉にして確認しながら進行します。ダンスを用いた授業を実施するにあたり、自信を持って取り組んでいただくために、先生一人一人に合った必殺技を持ち帰っていただきます。例えば「この曲で踊らせたらかきっと日本一!」「家電の機能を身

体で表現するのが上手すぎる!」など。先生自身とダンスが一番強く結び付く感触を発見し、その実感を生徒さん達にもお伝えいただきたいです。

③文化施設でのアウトリーチ

施設の特徴や周辺エリアを綿密にリサーチしてテーマソングから創り(リサーチをもとに歌詞を創作)生み出したオリジナルダンスを、職員の皆さまと踊ります。施設内で踊り、ミュージックビデオの製作もチャレンジします。実施例:岩手県宮古市【崎山貝塚縄文の森ミュージアムで踊る!】縄文かもしれない体操〜不思議な職員篇〜

あらゆる対象のアウトリーチに、その場所の個性を活かして対応したいと考えています。

公募ワークショップ

①「歌謡曲スイッチ」

ちあきなおみ「喝采」や八代亜紀「雨の慕情」など歌謡曲の歌詞に登場する人物になり切って踊ります。私

が創った振付と、参加者の方々に歌詞をヒントに創っていただくパートを組み合わせで1曲踊り切ります。歌詞が振付を思い出すヒントになるのでダンス経験がない方でも取り組みやすいワークショップです。

②「人差し指の思い出」

二人組で行います。人差し指を合わせた(E.T.のように。)状態をキープしているんな動きにチャレンジします。人差し指の次は、背中、頭、お尻、膝など体のいろんな部位を合わせて動いてみます。思い通りに動かないじれったさも含めて、よい思い出です。

③「ご当地スターにちなんだダンス」

その土地出身の歌手の楽曲や特徴をワークショップに取り入れます。島根県での実施例:渡哲也が出演する宝酒造CM「松竹梅」のリズムに合わせて踊る。Official髭男dism「Pretender」「Subtitle」で踊る。

これらのワークショップ内容を、対象者のダンス経験や年齢、目的に合わせて組み合わせて進を行います。

この事業で可能な市民参加作品のスタイル

オリジナル作品

参加者の方々に「この街で一番大切な場所」と「そこでの思い出」を伺います。その答えや、上演する土地の文化(歴史・建物・出身の作家が書いた作品)を混在させてノンフィクション・フィクションを織り交ぜた作品を創ります。

▶上演時間:20〜60分

▶出演者数:2名(登録アーティスト+アシスタント)

▶市民参加の形態:作品に出演・エピソードの提供・作中の映像に出演

▶クリエーションワークショップの参加(出演)人数・回数:3〜20名程度6〜10回程度

▶同行スタッフ:映像、演出助手、照明いずれか

▶現地スタッフ:舞台監督1名、音響1名、照明1名

▶上演環境:

(1)会場の広さ・形状:8m×8m程度。野外を含め、ホールの環境に対応いたします。

(2)床/リノリウムの有無・色はホールの環境に対応いたします。

(3)必要機材、舞台セット:プロジェクターなど映像機材があれば助かりますが、ホールの環境に対応いたします。

▶その他:事前に参加者の方々にアンケートを実施するなど、ワークショップ開始前から情報収集が出来たら助かります

この事業で可能な公演作品

①『花の名前』

向田邦子の著作短編『花の名前』の朗読に合わせ、身体と言葉の関係を遊び尽くす作品。

▶上演時間:60分

▶出演者数:ダンサー2名、歌手1名、演奏1名

▶同行スタッフ:演出助手、照明いずれか

▶現地スタッフ:舞台監督1名、音響1名、照明1名

▶上演環境:

(1)会場の広さ・形状:8m×8m程度(2)必要機材:ピアノ1台(無い場合も対応を考えられます。)

②『カーテン』

同じ風に吹かれて、私とあなたの服が髪が体が揺れる。今、共に生きている証明。カーテンの隙間から、隣人の正体を垣間見るようなグループ作品。(市民参加も可能な作品)

▶上演時間:30分

▶出演者数:3名(登録アーティスト+アシスタント)

※市民参加作品バージョンは約12名出演に対応可

▶同行スタッフ:演出助手、音響、照明いずれか

▶現地スタッフ:舞台監督1名、音響1名、照明1名

▶上演環境:

(1)会場の広さ・形状:8m×8m程度(2)床:リノリウム(または裸足・靴下で踊ることができる床)

③『ジゼル』

教えてほしい、この身を越える愛の選択を。バレエの演目『ジゼル』を題材に創作。ヴァージニア・ウルフの言葉を用いながらジセルの心情を読み解く。

▶上演時間:60分

▶出演者数:1名

▶同行スタッフ:演出助手、照明、映像いずれか

▶現地スタッフ:舞台監督1名、音響1名、照明1名

▶上演環境:

(1)会場の広さ・形状:8m×10m程度(2)床:リノリウム(3)必要機材:プロジェクター(4)舞台セット:机一台、椅子一脚、ベンチ一脚、木枠一脚

この事業で挑戦してみたいこと

ダンスについて考えていると感じていることを、パフォーマンスや自分の言葉を通じて、日本各地で暮らす方々にお渡しする。この機会が私にとって、とても有り難く、大切な時間です。ダンスの力をジーンと感じて、また創作の日々に帰っていただけます。市民参加作品の創作では、街の景色・文化・思い出・人を、ダンスという形で記録したいと考えていま

す。パッと現れた私たちのような通りすがりの存在が「これは素敵!面白い!」と飛び付いた街の魅力を、そこで暮らす皆さんにダンスを通じて「自分の街の誇り」だと感じてもらえたなら、さらに輝いて日々を送ってもらえたなら願っても無いことです。アウトリーチやワークショップでは、参加者の方々の意外な一面、もしかしたら正体かもしれない姿に遭遇したいです。心が脱皮する瞬間

を共に味わいたいです。作品の上演では、ダンサーの追究された表現力・切実な身体を通して、現在進行形で発展しているダンス作品を目の当たりにしていただきたい、そしてコンテンポラリーダンスという分野の面白さもお伝え出来たらと考えています。「自分には出来ない関係のない芸術」ではなく「この土地や自分自身の中にダンスの種があるかもしれない」と感じていただけたら幸いです。